



町内の全世帯が、レジ袋を1年間(1ヶ月15枚)利用しなかつたとき、その効果は…

- **石油は、20,294ℓが削減されます。**
灯油缶(18ℓ)1,127缶分に相当します。
 - **二酸化炭素は、66,528kgが削減されます。**
杉の木4,752本分の吸収量に相当します。
 - **ごみの量は、11,088キロ減量できます。**
併せて、焼却場の維持費・焼却灰処理費の削減にもつながります。
- レジ袋(2Lサイズ)1枚10g(製造および焼却過程を含む)の場合で、生産=石油18.3ml、二酸化炭素の排出=60gで試算。
杉1本1年間の二酸化炭素吸収量=14kg、世帯数6,160世帯で試算。

マイバッグでのお買い物マナー

~マナーを守って楽しいお買い物を~ 「方引き」と「疑われないために……」

1 マイバッグは たたんだまま!

お買い物中、マイバッグは折りたたんでおきましょう。
折りたためないものは、バッグの口を閉じておきましょう。

2 商品は お店のカゴに!

商品は、お店にそなえ付けの買い物カゴにいれましょう。

3 マイバッグは 精算が済んでから!

マイバッグはレジ袋の代わりです。
会計精算が済んでから使用しましょう。

4 お店のカゴは 元の場所へ!

そのお店のお買い物用に用意されているカゴを持ち帰らないでください。
決められた場所に戻しましょう。

住民環境課・山都警察署

急なお買い物に備えて、いつでも、どこでも使えるようにマイバッグをカバン等に入れておきましょう。

きれいな水と川を残すために『浄化槽』の設置を推進しています。

山都町では、河川環境の保全等を目的に、浄化槽を設置される方に対し補助金を交付しています。
特に、集落単位で浄化槽の整備を行う「面的整備」については、個人で行う「個別整備」と比較し、高額の補助金を交付しています。浄化槽の整備に取り組みされていない集落の方は、ぜひご検討ください。
なお、ご相談いただければ、浄化槽の面的整備に関する地元説明会を開催することも可能です。このほか、浄化槽に関する不明な点などございましたら、住民環境課までお問い合わせください。

〈家庭に設置する浄化槽の大きさ〉

家庭に設置する浄化槽の大きさ(人槽)は、主に家の延床面積により区分されます。(右表参考)
ただし、10人槽以上の浄化槽を設置する場合は事前に住民環境課までお問い合わせください。

設置基準	設置する浄化槽
延床面積が130㎡以下の住宅	5人槽
延床面積が130㎡超過の住宅	7人槽
2世帯住宅・大家族住宅	10人槽

〈浄化槽設置に対する補助金額〉

①個別整備に対する補助金額

人槽	補助金額
5人槽	354,000円
7人槽	485,000円
10人槽	770,000円

【面的整備とは】

集落内の複数の方が、新たに浄化槽を設置することで、当該集落内の浄化槽整備率が**80%以上**となる場合に実施でき、補助金額も個別整備に比べ高額になります。
ただし、下表のとおり、現在の集落内の浄化槽整備率により補助金額が変わります。
※現在の集落内の浄化槽整備率が不明な場合は、住民環境課までお問い合わせください。

②面的整備に対する補助金額

(1)現在の集落内の浄化槽整備率が30%未満の場合の補助金額

人槽	補助金額
5人槽	518,000円
7人槽	707,000円
10人槽	1,113,000円

⇒ ※ただし、「浄化槽の設置費用の70%」と「左の表の金額」を比較し、低い方の額が補助金額となります。

(2)現在の集落内の浄化槽整備率が30%以上50%未満の場合の補助金額

人槽	補助金額
5人槽	481,000円
7人槽	656,000円
10人槽	1,033,000円

⇒ ※ただし、「浄化槽の設置費用の65%」と「左の表の金額」を比較し、低い方の額が補助金額となります。

(3)現在の集落内の浄化槽整備率が50%以上80%未満の場合の補助金額

人槽	補助金額
5人槽	407,000円
7人槽	555,000円
10人槽	874,000円

⇒ ※ただし、「浄化槽の設置費用の55%」と「左の表の金額」を比較し、低い方の額が補助金額となります。

○各種お問い合わせ

山都町役場 住民環境課 環境衛生係 (電話:72-0767)

「チリもつもれば、山都なる」ゲンコツ(減CO2)プロジェクト開始
新町商店街で、地域内の世帯から出る生ゴミ、店舗から出る事業系の生ゴミを処理し、堆肥化して利用しようという取り組みが始まりました。新町温暖化削減実行委員会が主体となり、新町商店街へ呼びかけを行い、11月2日日本さつまで説明会が行われました。
説明会では、この事業を当実行委員会とともに行うNPO法人九州環境保全循環システムから、バケツをつかった生ゴミの収集方法や収集時間などについて説明が行われました。
生ゴミは水分を多く含むため、焼却するには多くの熱が必要となり、その結果二酸化炭素の排出量も増えてしまいます。この事業では、収集し堆肥化することによって削減される、二酸化炭素量や町のゴミ焼却経費をデータで「見える化」し、それを各世帯へ提示することでゴミの分別やリサイクルへの意識を醸成することも目的としています。
説明会の翌週、参加を希望された世帯から早速ゴミが集まっていき、現在30世帯と10の事業所が事業に協力されています。



生ゴミのリサイクルを!